

富士通、1FINITY、世界最大のコネクティビティ関連展示会「MWC Barcelona 2026」に出展

最新のネットワーク技術と AI ソリューションを紹介

富士通株式会社（以下 富士通）（注1）と、富士通グループにおいてネットワーク事業を担う1FINITY株式会社（以下 1Finity）（注2）は、2026年3月2日（月曜日）から3月5日（木曜日）までスペインのバルセロナで開催される世界最大のコネクティビティ関連展示会「MWC Barcelona 2026」に出展し、「Intelligence in Motion」をテーマに、最先端のエンタープライズ向けAIソリューションとAI時代を支える最新のネットワークソリューションを紹介します。

本イベントでは、1Finityの取り組みとして、AIの利活用を支えるモバイルおよび光のオープンネットワークインフラの最新のポートフォリオに加え、AIによるネットワーク構築や運用高度化ソリューション、ユースケースについてデモを交えて紹介します。また、AIやコンピューティング領域における富士通の取り組みとして、AI・HPC・量子コンピューティングを融合した次世代の材料開発、AIプラットフォーム「Fujitsu Kozuchi」のコア技術であるAIエージェント、高性能かつ省電力性を追求した次世代プロセッサ「FUJITSU-MONAKA（注3）」を紹介します。

企業活動や個人の生活においてAIを活用したアプリケーションが日常的に利用されるようになり、データトラフィックもそれに合わせて変化していく中、ネットワークインフラの重要性は益々高まっています。両社は、マテリアリティの一つであるデジタル社会の発展のもと、最先端のネットワーク技術を通じて、お客様と共にサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）の実現に貢献します。

【「MWC Barcelona 2026」開催概要および富士通・1Finityブース】

会期：2026年3月2日（月曜日）から2026年3月5日（木曜日）まで

会場：Fira Gran Via, Av. Joan Carles I, 64 08908 L'Hospitalet de Llobregat, Barcelona, Spain

富士通・1Finityブース：2G60 (Hall 2)



【主な出展内容】

1. テクノロジーエリア

量子コンピューティング、「FUJITSU-MONAKA」、AIエージェントなど、未来を拓く先端テクノロジーが集結するエリアです。

・量子コンピューティング：

AI、HPC、量子コンピューティングの融合により、材料開発のための複雑な物性評価を、効率的に実行可能とすることを目指します。従来は、実験により膨大な時間とコストをかけて物性評価していた触媒探索の分野で、網羅的な探索の実現可能性を示します。

・「FUJITSU-MONAKA」：

最先端の2nm技術と「富岳」の技術を継承した富士通の独自設計により、AI推論やネットワーク処理などの多様なワークロードで高い電力効率と高性能を発揮するArmベースの次世代プロセッサを紹介します。2027年の提供を目指し、NVIDIA（注4）およびArccus（注5）との協業でAIを支えるグリーンなITインフラの実現を加速します。

・マルチAIエージェント連携技術：

複数企業にまたがるサプライチェーンを最適化し、調達業務を高度化します。また、セキュアエージェントゲートウェイが、異なるベンダーにより開発されたAIエージェント間のセキュアな情報共有を保証します。

・フィールドサポートエージェント：

AIエージェントが現場を支援し、ネットワーク企業を中心としたサービスデスク業務の効率化を実現する技術について、インタラクティブデモで体感いただけます。

・Amalgamation AI：

少ない学習データと限られたGPUリソースから、価値あるAIアプリケーションを迅速に構築します。例えば、AI

の専門知識がなくても画像認識タスクに最適なVLM（視覚言語モデル）を選択することができ、工場のモニタリング業務をはじめとする現場の生産性を飛躍的に向上させます。

2. ゴジラなりきり体験エリア

社会課題を起点とした当社の事業モデル「Uvance」のオフアリング「AI Technologies and Solutions」の、人の動きをリアルタイム・高精度にデータ化する骨格認識AIを用いて、日本が世界に誇る怪獣王ゴジラ（注6）になりきる体験ができます。参加者は30秒間、グリーンスクリーンの前に立ち、ゴジラの動きを模倣すると、その動きが画面上でゴジラとして再生され、都市を破壊する映像が表示されます。

同時に、災害対策時にも活用できる1Finityのネットワーク技術の一つである、AI-RAN技術を使い、緊急時のRAN機能とAIアプリケーション間におけるGPUリソース最適化や、周辺モバイル端末へのタイムリーな警報発信といったユースケースを紹介します。本デモンストレーションを通じて、富士通と1Finityの技術が人間のポテンシャルを強化し、より快適で安全かつ持続可能な社会を創出する想いをインタラクティブに体験できます。

3. 1Finityエリア

1Finityが提供する最新のネットワークインフラソリューションを「AI-Ready Infrastructure」「Network Optimization」「AI-Driven Opportunities」の3つのゾーンで紹介するエリアです。

・ AI-Ready Infrastructure Zone

増加を続けるAIデータトラフィックを支える最新のネットワークインフラ製品・サービスを紹介します。

(1) Open RAN :

都市部向けの高容量Massive MIMOを含む最新のRadio Unitポートフォリオ

(2) Open Transport :

エッジ／アクセスからメトロ、長距離、次世代データセンター間接続までをカバーする光伝送製品や、低消費電力に寄与する液冷技術など

(3) Arrcus :

エッジからクラウドまで多種多様なプラットフォーム上で一元的に動作し、トラフィックの最適化、自動化、拡張性を特徴とするAIインフラを支えるArrcusの共通ネットワークOperating System「ArcOS」を中心としたネットワークソリューション

・ Network Optimization Zone

AIを活用し、ネットワークの構築や運用を高度化・効率化するソリューション、サービスをデモを通して体感できます。

(1) AI Operations :

長年にわたるネットワーク運用とAI適用の経験に基づいた、マルチベンダー・マルチドメイン対応のネットワーク運用ソリューション

(2) Network Modernization :

既存ネットワークから最新技術への移行を支援し、リソース最適化やスケールアップ／ダウンによって変化する

る需要への柔軟な対応を可能とするモダナイゼーションサービス

・ AI-Driven Opportunities Zone

AIとネットワークの融合による新しいビジネスモデルやユースケースを紹介します。

(1) AI-RAN :

骨格認識AIを用いたゴジラのなりきり体験に加え、AIアプリケーションとRANワークロードの共存を促進する、AI and RANのユースケースを中心に、NVIDIA社のGPUを活用したAI-RAN技術の最新状況やビジネスモデルのアイデアを紹介

(2) Private Wireless :

製造、流通など、多くの業種に対応したオールインワンのプライベートワイヤレスソリューション

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【注釈】

注 1 富士通株式会社：本店 神奈川県川崎市、代表取締役社長 時田 隆仁

注 2 1FINITY 株式会社：本社 神奈川県川崎市、代表取締役社長 森林 正彰

注 3 FUJITSU-MONAKA：この成果は、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助事業の結果得られたものです。

注 4 NVIDIA Corporation：本社 米国 カリフォルニア州、創業者/CEO ジェンスン フアン（Jensen Huang）

注 5 Arrcus Inc.：本社 米国カリフォルニア州サンノゼ、CEO Shekar Ayyar

注 6 ゴジラ：TM & © TOHO CO., LTD.

【関連リンク】

- MWC Barcelona 2026 イベントサイト：<https://www.mwcbarcelona.com/>

本件に関するお問い合わせ

富士通株式会社/1FINITY 株式会社 お問い合わせフォーム

<https://contactline.jp.fujitsu.com/customform/csque04802/873532/>